



第436号

2023年 7月

〒461-0004 名古屋市東区葵2丁目6-35 カトリック名古屋教区広報部 電話 (052) 935-2223 FAX (052) 935-2254 news@nagoya.catholic.jp 印刷所 株式会社 荒川印刷 毎月第1日曜日発行

出て行こう！ 名古屋教区101年目 神からの恵み AGIFTを告げるために

教区ホームページ

福音のひびき

7月の説教者

- 2日 年間第13主日 ペラルタ・アンヘル (三河センター)
- 9日 年間第14主日 窪口 松雄 (北陸ブロック石川地区)
- 16日 年間第15主日 ビリスブル・ジュード (豊橋教会)
- 23日 年間第16主日 島袋 幹男 (聖心教会)
- 30日 年間第17主日 ポンタッキョ・チブリアノ (北陸ブロック石川地区)

名古屋教区設立100周年

子どもが生き生きできる協会へ

教区聖年閉幕ミサ



名古屋教区設立100周年「教区聖年閉幕ミサ」が5月28日、布池教会で行われ、名古屋教区はいよいよ101年目を歩み始めた。

会場には小教区の代表者など約400人が集まり、オンライン配信でも40カ所個人・教会・修道院が参加した。さまざまな国籍・ルーツの人が多く居住する名古屋教区らしく、鮮やかな民族衣装を身にまとった人たちの姿も見られた。

分かち合い 信仰をどうつなぐか

ミサに先立って第一部「分かち合いのつどい」が「つなげよう！わたしたちの信仰」のテーマで行われた。約200人の参加者が大聖堂の地下ホールを埋め尽くした。青年委員会の松浦友助さん(南山教区)が司会を務めた。典礼聖歌「あなたがいささ」の答唱句を暮林響神父(神言会)のギター伴奏で歌ったあと、青年司牧部・青年委員会の片岡義博神父(金沢教区)がテーマの説明をした。青少年司牧部では昨年11月の「子どものつどい」に先立って、各小教区の子どもたちや教会学校のリーダーたちにアンケートを行った。



会場には小教区の代表者など約400人が集まり、オンライン配信でも40カ所個人・教会・修道院が参加した。さまざまな国籍・ルーツの人が多く居住する名古屋教区らしく、鮮やかな民族衣装を身にまとった人たちの姿も見られた。

最後に、分かち合いを踏まえて各自が決意したことをシールに書き、グ

ループごとに台紙に貼った。シールには聖霊の絵が描かれていた。

動画「信仰の歩み」とAGIFTの5文字

分かち合いの参加者が大聖堂に移り、第2部のミサとなった。小教区の代表者、各国籍・文化のグループ、子ども奉仕者、障害者、修道会代表、司祭団などで聖堂は満席。そこで、この春に募集した「みんなの信仰のあゆみ」の動画が上映された。信徒個人、司祭個人、あるいはグループそれぞれが思いが映像に表現されていた。

最初に登場した松浦信郎司教は「転任のたびに、今度の教会ではどのような出会いがあるだろうか、どんなことができたらよいか分らない」という保護者たちの声を取り上げて、今回のテーマとしたと述べた。

参加者はそれぞれ数人ずつのグループに分かれ、「子どもたちが生き生きとしたいらる教会が良いか」について分かち合った。短い時間ながらも、所属する小教区の実践や体験などが共有された。

最後に、分かち合いを踏まえて各自が決意したことをシールに書き、グ

手を広げて奉獻の祈りを唱える松浦司教。左端はポツカルディ大司教

「もうひとつは横のつながり。小教区を訪問しながら、一生懸命信仰を伝えるために、わたしたちは、これから生きる人々に喜びのメッセージを伝えていく使命があります」

「もうひとつは横のつながり。小教区を訪問しながら、一生懸命信仰を伝えるために、わたしたちは、これから生きる人々に喜びのメッセージを伝えていく使命があります」

「教会をサードプレイス(3番目の場所)となるようにしよう。最近、家を出して繁華街で野宿している十代の子もいる。1番目の場所である家庭、2番目の場所である学校には、ありのままの自分でいられる、ありのままの自分を受け入れてくれる居場所がないとされる。その点、教会は小さな赤ちゃんから高齢者まで、男性、女性、そ

あいさつに立ったポツカルディ大司教

「正義と平和を行うように 全教区で青年を後押し」

閉祭の「派遣セレモニー」では、ポツカルディ大司教がバチカン国務大臣(2面に続く)

「縦糸は歴史のつながり。わたしたちの前の時代から様々な困難がある中、一生懸命信仰を伝えるために、わたしたちは、これから生きる人々に喜びのメッセージを伝えていく使命があります」

「縦糸は歴史のつながり。わたしたちの前の時代から様々な困難がある中、一生懸命信仰を伝えるために、わたしたちは、これから生きる人々に喜びのメッセージを伝えていく使命があります」

「教会をサードプレイス(3番目の場所)となるようにしよう。最近、家を出して繁華街で野宿している十代の子もいる。1番目の場所である家庭、2番目の場所である学校には、ありのままの自分でいられる、ありのままの自分を受け入れてくれる居場所がないとされる。その点、教会は小さな赤ちゃんから高齢者まで、男性、女性、そ

各国グループの奉納品



100周年記念オペラ

名古屋教区設立100周年記念オペラ「忘れられた少年」が教区聖年閉幕ミサの前日の5月28日、布池教会大聖堂で上演された。開幕のおよそ1時間前から入場を待つ人々が長い列を作り、大聖堂はいっぱいとなった。駐日教皇庁大使に就任して初めて名古屋を訪れたレオ・ポツカル Deputy 大司教も観賞の席にあった。

ストーリーは16世紀、ローマ教皇に会うために九州のキリシタン大名、大友宗麟、大村純忠、有馬晴信の名代として派遣された4人の少年を中心とする使節団の実話をもとにしている。ザビエルの教えを引き継いだ少年たちが、困難な長旅の末にたどり着いたヨーロッパ各地で熱狂的な歓迎を受ける。異国のすばらしい文化、信仰にふれながら過こ



聖母の祈りのひととき

この非情なる逆境に立たされた4人がその後たどった道は次の通りだ。伊藤マンシヨは過労により若くして長崎で病死。原マルチノはマカオに追放されてさびしく客死。千々石ミゲルは悩みぬいた末に棄教。そして中浦ジュリアンは長崎・西坂で穴吊るしの刑による壮絶な殉教を遂げた(2008年、ペトロ岐部ら18人と共に福者に列せられた)。

4人がどう自分の人生

「国籍を超えた神のしるしとなる共同体として、新しい時代へと漕ぎ出した時」を思い起こさせる、多国籍の信者を迎えての豊かな集いとなった。

またロザリオの祈りの一連ごとの意向も、「シノドスのための祈り」のように「聖霊の花嫁」である聖母の取り次ぎが感じられ、聖霊のうちに静かかかわらず50人余の参加者があり、「教区設立100周年の祈り」にもあるように歩む教会のため一交わり、参加、そして宣教」をテーマとするシノドス第16回通常総会の第1会期が今年10月から始まるのに合わせて、その準備として世界中の教会に要請されたもの。

その目的は、①現在進行中のシノドスの歩みの重要性に信者たちが気づき、祈りをもって共に歩むよう促すため、②シノドスの歩み全体、とくにシノドス総会を聖母による特別な保護のうちに置くため、③さまざまな召

えいごで聖句ドリル

(7月9日の福音より)

“Come to me, all you who (A) and (B), and I will give you (C).”
 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。
 (マタイ福音書11章28節)
 (英文は The new American Bible、日本語は新共同訳聖書による)

- Q. (A) (B) (C) に入る語句はどれ?
 (1) are burdened (2) rest (3) labor

未来へ向かうためのオペラ 「忘れられた少年」

「わたしは神の賜物を名古屋教区に祈っています。多くの司祭と多くの修道者の召命がありますように。もうひとつの賜物として、家族にも社会にもイエスの福音の証しがありますように」

大使は最後に、「パバ様のあいさつをわたしが述べます。神の祝福が皆さんの上にありますように。再び、大きな拍手が沸き起こった。

松浦司教もあいさつに立ち、野村名誉司教が共

にした彼らは、教皇から神の国の宣教と祝福を託され、日本での神の国の実現に希望を膨らませて帰国の途に就く。

ここまでの前半部は歌も衣装も華やかで、希望と喜びに満ちあふれた舞台が繰り広げられる。しかし、後半には、重苦しく深刻な事態が描かれる。日本を出て8年、すでに青年となった彼らを待ち受けていたのは、秀吉および江戸幕府による厳しいキリシタン禁教令だった。

開催されるワールドユースデーに名古屋教区から参加する7人の青年のうち、会場にいた2人を紹介し、青年たちのワールドユースデー参加を教区全体で後押しするよう促した。

セレモニーの最後には派遣のロウソクリレーが行われた。各ブロック代表の7人の大人から祭壇奉仕の子どもたちへ、A・G・I・F・Tの文字と聖霊が刻まれたロウソクが手渡された。その間、司会で青年委員会の梁良我さん(春日井教会)が「年齢も性別も国籍も超えて皆で支え合いましょう」とメッセージを読み上げた。

閉祭の歌は「アーメン・ハレルヤ」。大きく手を振り上げて手話で歌う人たちの姿も喜びであふれていた。歌声は聖霊いっばいに響き渡った。閉祭のアンナウス後も「アーメン・ハレルヤ」のバンド演奏は続いた。

今年度第1回の教区宣教司牧評議会が6月4日に開かれた。7ブロックを代表する司祭と男女の信徒、さまざまな立場を代表する司教任命委員など33名が参加した。インターネットによるオンライン参加もあった。

司祭・奉献生活者のダイヤモンド金銀祝、金沢・卯辰山の殉教者祭、教区100周年行事などの活動報告や昨年度決算報告、高齢者の司教祝福カード、ブロック典礼委員の選出、平和句間行事などの現状報告・経過報告に続き、平和句間行事などの進行/子どもたちにも教会での役割を分担し、保護者と共にかわらせる/地域のボランティアとして炊き出し活動に参加する/パザールの運営などを青年たちに任せる/初

命(信徒として、司祭として、奉献生活者として)の人々の参加を一つにするため、とされている。

聖母に奉献された聖堂で行うとの司教団の決定に沿って、無原罪の聖母にささげられた東山教会(伊藤大有主任司祭)で行われた。

松浦司教とプログラムを考案し、伊藤神父の協力を仰ぎ、もろもろの準備や当日の運営にあたった東山教会の信者の皆さんに感謝するとともに、参加者が心を一つにして行なうことができたことにも聖霊の働きに感謝したい。

(南山教会・秋元伸介)

「1面の続き」

「わたしは神の賜物を名古屋教区に祈っています。多くの司祭と多くの修道者の召命がありますように。もうひとつの賜物として、家族にも社会にもイエスの福音の証しがありますように」

大使は最後に、「パバ様のあいさつをわたしが述べます。神の祝福が皆さんの上にありますように。再び、大きな拍手が沸き起こった。

松浦司教もあいさつに立ち、野村名誉司教が共

にミサをささげられたことに喜びを表し、各務原教会の主日のミサには元気な姿を見せていることを報告すると、聖霊には喜びの拍手が広がった。

司教はこの日のために関わってくれた人たちに次々に感謝を述べたが、「一番感謝したいのは青年たちです」と言い、昨年からの話し合いを重ねて分かち合いのつどいと閉幕ミサの企画を担当した青年たちをたたえた。

また、今夏リスボンで

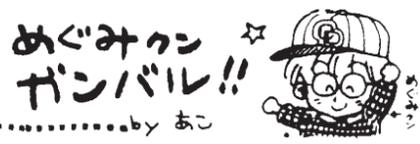
「次世代につなぐ振興」

「次世代につなぐ振興」

「次世代につなぐ振興」

聖体の祝いを教会全体で行う/信仰教育のできる人をまず養成する/教会内・教区内の交流のため巡礼を続ける/外国籍の幼児洗礼受洗者にも日本語で信仰教育をする/子どもの信仰教育に若い世代がたずさわられるようにする/教会の情報にアクセスしやすいう環境を整備する/公立学校でも宗教教育を行っている国もあり、日本でも公立学校で宗教教育の機会が与えられるよう政府に働きかける/教会と地域の関わりを考える。たとえば教会で子どもたちの補助学習の場を提供するなど/若い世代や子どもたちの地域活動参加を促す、など。

これらの結果をブロックに持ち帰り、さらに発展させ、地域に開かれた教会を目指すようにと、松浦司教は話した。



めぐみカンガンバレ!!
.....by あこ

引越しの準備
幼稚園以来
58年間拠点だった
実家を置く
断捨離
家族のアルバムの
整理

過去の自分を
思い出し
神さまに預ける

形あるものは
風化し
消えていくなら
消えてゆけ

自分が生きた痕跡は
共に歩んでくれた
人達の心の中に
あればそれでいい

全てを
削ぎ落とした後に
なお何が残るのか



これだけあれば
これさえあれば
生きていける

あの日

観想修道会の
シスターの方の霊性に
どこまで近づけるか
チャレンジか

おつかいなし
そんなのになんて
荷物があるんだらう

煩悩だらけ
どん!

- 7月の教会暦**
- 1日(土) 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者(記)
 - 2日(日) 年間第13主日
 - 3日(月) 聖トマ使徒(祝)
 - 9日(日) 年間第14主日
 - 11日(火) 聖ベネディクト修道院長(記)
 - 15日(土) 聖ボナベントウラ司教教会博士(記)
 - 16日(日) 年間第15主日
 - 22日(土) 聖マリア(マグダラ)(祝)
 - 23日(日) 年間第16主日
 - 25日(火) 聖ヤコブ使徒(祝)
 - 26日(水) 聖マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ(記)
 - 29日(土) 聖マルタ 聖マリア 聖ラザロ(記)
 - 30日(日) 年間第17主日
 - 31日(月) 聖イグナチオ(ロヨラ)司祭(記)
- 8月の主な教会暦(主日・祭日など)**
- 6日(日) 主の変容(祝)
 - 6日(日) 15日(火) 日本カトリック平和旬間
 - 13日(日) 年間第19主日
 - 15日(火) 聖母の被昇天(祭)
 - 20日(日) 年間第20主日
 - 27日(日) 年間第21主日
- 教区行事予定** (*=松浦司教)
- 1日(土) カトリック看護協会「松浦司教様との集い」*
 - 2日(日) 平針教会堅信式*

祖父母と高齢者のための世界祈願日 7月23日 (7月の第4日曜日)

この祈願日は2021年、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの最中に制定された。感染拡大防止を理由に多くの高齢者が孤独のうちに置かれ、だれにも看取られることなく亡くなった。その悲劇は苦しむ人に寄り添うというキリスト者の召命についてあらためて考えるよう促している。

この祈願日の教皇メッセージはとりわけ高齢者自身へと向けられる。教皇は、記憶を保ち信仰を伝えるという高齢者の使命を繰り返し説く。高齢者には社会において担うべき役割があるのだ。

そこで、高齢者にはその使命の自覚が求められ、また、後の世代にとっては、高齢者の果たす役割への理解が求められる。家庭にも教会にも高齢者が活躍する場、あらゆる世代がつながって協働する場が必要なのである。

- 8日(土) 典礼委コアミーティング 殉教者委員会定例会 信徒協役員会
- 9日(日) 城東B会議/三河B会議 難民移住移動者委員会 樹の会
- 11日(火) カリタス福祉委員会 顧問会*
- 12日(水) 正義と平和委定例会・学習会
- 13日(木) レジオ・マリエ名古屋クリア
- 14日(金) 城北B会議/城南B会議 押切教会献堂70周年記念ミ
- 15日(土) 6日(木) 常任司教委員会
- 16日(日) 18日(火) 21日(金) 司教総会

告知板

7月

6日(木) 常任司教委員会

18日(火) 21日(金) 司教総会

◆7月の吹き出し

- 木 6日布池、13日南山・樹の会、20日聖霊・南山・樹の会、27日城北橋
- 金 7日喜望の会、14日布池、21日AJU・恵方町、28日長浦

- 8月**
- 4日(金) 6日(日) 教区中高生会・広島巡礼
 - 6日(日) 南山教会有志・平和の集い*
 - 9日(水) 三河B平和祈願ミサ
 - 10日(木) 顧問会*
 - 11日(金) 祝北陸平和祈願ミサ*
 - 12日(土) 正義と平和委・映画上映会 典礼委コアミーティング 信徒協役員会
 - 13日(日) 教区平和祈願ミサ*
 - 21日(月) 25日(金) 教区司祭黙想会*
 - 27日(日) 一粒会の集い(北陸地区)*
- サ*** 聖マリアの無原罪教育宣教修道会・終生誓願式*
- ミサ*** 難民移住移動者委・若者のミサ*

建設費の返済に協力を

660件 35,191,634円
目標額 40,000,000円 (5月末現在)

達成率 約88.0%

郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

インターナショナルユースデー名古屋

・昨年の「共に生きるための研修会」で外国籍の青年から、「教会に居場所がない」との訴えがありました。どうしたらいいのか、皆でいっしょに考えましょう。

・日本人の若者、外国人の若者に声をかけ、さそってください。

・若者のことを知りたい人、交わりたい人、話を聞きたい人、大歓迎です。

テーマ 「あなたの居場所」

日時 7月30日(日) 13時30分～16時30分

会場 カトリック城北橋教会

内容 司教ミサ、茶話会と分かち合い、ゲーム

申込み 名古屋難民移住移動者委員会 tomonokai9480@gmail.com

2023年度正義と平和委員会学習会

年間テーマ 「やられた方から歴史を見る パート2 ～誰一人置き去りにしない～」

日時・場所	テーマ	講師
7月14日(金) 10時30分 福信館	性的マイノリティに生きて	後藤香織さん (聖公会司祭)
9月8日(金) 10時30分 福信館	DVの女性被害者	駆け込みセンター愛知

「やられた方から歴史を見るということは、イエスに従う私たちの現実に対する姿勢につながります。社会も、組織も、誰一人残さないことを軸とする包摂的ないのちのつながりとなる営みが、現代の福音の生き方であると信じています。」

(弘田しずえ『福音宣教』2022年1月号)

問合せ カトリック名古屋教区正義と平和委員会 〒461-0004 名古屋市東区葵2-6-29 福信館気付 FAX 052-935-7195

名古屋教区平和祈願ミサ

テーマ いのちを守る・平和を築く～何が見える、何が聴こえる～

日時 8月13日(日) 13時30分～16時15分 会場 布池教会大聖堂

第一部 「平和を考えるつどい」 13時30分～14時30分

名古屋出入国在留管理局(名古屋入管)に収容されている非正規滞在の外国人と面会し支援を続けているフレンズ名古屋の西山誠子さんと、憲法、基本的人権が沖縄では機能していない状況に心を痛め、南山大学、愛知大学を定年退職後、沖縄に移住して基地の人権の訴訟にも取り組む沖縄大学客員教授の小林武さんからお話を聴きます

第二部 平和祈願ミサ 15時～16時15分

第15回 平和祈念の集い

テーマ「平和をつなぐ」
—真の平和を呼びかける人になろう—

講師 松浦悟郎司教

日時 8月6日(日) 13時～15時 (開場12時30分)

場所 カトリック南山教会大聖堂 名古屋市昭和区南山町1 地下鉄鶴舞線いりなか下車 徒歩5分

プログラム ・講話 松浦悟郎司教 「守ろう 平和といのちとくらし」

- ・合唱 南山教会聖歌隊
- ・朗読 「戦災孤児となった多くの子どもたち」
- ・共同祈願
- ・オルガン演奏

主催 カトリック南山教会信徒及び名古屋友の会有志、ピース9の会

問合せ 井爪光子 TEL 080-3066-3433

名古屋教区正義と平和委員会主催
ドキュメンタリー映画 高賛侑監督作品

「ワタシタチハ ニンゲンダ！」

上映会

外国人学校に対する官製ヘイト、技能実習生、難民、入管の実態など 外国人差別の本質にせまる

日時 8月11日(金) 13時30分～15時30分 (開場13時)

会場 カトリック名古屋教区センター (布池教会東)

参加費 500円 (鑑賞券)

申込み E-mail: asano@toyota-ti.ac.jp (浅野)

問合せ FAX 052-935-7145

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】

—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

テーマ 原初史② (創世記2-3章)

主要内容 他者との出会いと神との出会い、救いの場としての塵性と裸性、いのちの木の回復としてのイエス・キリスト

日時 9月2日(土) 14時30分～16時30分

場所 跣足カルメル修道会日比野修道院 (カトリック日比野教会)

持ち物 必ず聖書(旧約+新約)をご持参ください。参加費無料。

担当 志村武神父(跣足カルメル修道会)

問合せ 日比野修道院 (052-671-1003)

以降の予定 10月21日(土)、11月18日(土)、12月16日(土)、2024年1月20日(土)、2月17日(土)、3月16日(土)

【静修の集い】

日時 9月30日(土)、12月2日(土)、2024年3月9日(土)

プログラム 14時～初めの祈り、14時20分～講話、15時20分～ご聖体顕示、念祷、面談、16時20分～ミサ、17時解散

担当 カルメル会士